

□ 日 時： 令和5年11月17日（金） 15時00分～16時30分

□ 場 所： 草津市役所 502会議室

□ 出席委員： 11名

一般社団法人 草津栗東医師会、草津市まちづくり協議会連合会、滋賀いのちの電話、
自死遺族の会 凧の会、社会医療法人 誠光会 淡海医療センター、ハローワーク草津、
社会福祉法人 草津市社会福祉協議会、滋賀県司法書士会、草津保健所、市民公募2名

□ 事務局：

健康福祉部：永池部長、松尾副部長

健康増進課：井上課長、村上課長補佐、上野副係長、伊藤保健師、竹本保健師

1. 挨拶

【部長挨拶】

委員の皆様におかれましては、本日は御多用のところ、御出席いただきまして、誠にありがとうございます。また、日頃から本市保健衛生行政に多大なる御支援と御協力をいただき、この場をお借り致しまして、厚くお礼申し上げます。先般、第2回目の当推進会議では、計画の素案について広くご意見を頂戴し、ありがとうございました。今回は、パブリックコメント前の最後の推進会議ということで、実質、今回が原案に対するご意見をいただく最後の会議となりますので、委員の皆様におかれましては、忌憚のないご意見を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

<草津市附属機関運営規則に基づき、本協議会が成立していることを報告>

2. 報告事項 第3次草津市自殺対策行動計画（案）について

<説明> 資料1、資料2、参考資料1に基づき事務局より説明

<協議>

【委員長】計画への意見やパブリックコメントの件数は少ないと思うが、過去のパブリックコメントではどれくらい意見があったか。

【事務局】計画により様々ではあるが、過去にごみ関係の案件では200件程いただいたこともある。市民生活に直接影響が少ない計画の場合は0件であることもある。市民が来られる場所に設置することで、できるだけ意見を得たいと考えている。周知については、他の計画と併せ、SNSの発信など、市民に見ていただきやすいような工夫をしていきたい。

【委員長】参考資料1の自殺対策関係機関のホームページのリンクや社会資源の情報にアクセスしやすいプラットフォームがあるとわかりやすいという点について、ホームページのリンクの方法について、具体的に考えているか。

【事務局】既に掲載のある厚労省や県の自殺対策推進センターのリンクに並べて掲載しようと考えている。

【委員長】パブリックコメントや計画案に対する意見や質問はあるか。

【委員】パブリックコメントはフォームがあると書きやすい。草津市のLINEに繰り返し流す等すれば意見は集まりやすい。

【事務局】 広く市民から意見をいただけるよう、発信方法について検討していきたい。

【委員】 パブリックコメント結果の掲載はいつ頃か。

【事務局】 2月5日までパブリックコメントを募集し、頂いた意見を踏まえ計画を修正する必要があるかどうか判断する。その後、内部での検討を経て、2月末に部長会議で審議をしていく。公表はその後となるため、市民の皆様への周知は4月以降の広報を考えている。3月中は難しく、年度が変わったタイミングですぐ公表して参りたい。ホームページにはそれより前に掲載できると思うので、工夫して参りたい。

【委員】 パブリックコメントの時期は早いほうが良い。パブリックコメントを反映した計画でないという意味がない。

【事務局】 パブリックコメントは、計画ができる前に市民の皆様により現時点の案をご確認いただき、意見を頂戴し、計画にどのように反映していくかという流れになる。本日の会議を経て計画案が固まれば、それをパブリックコメントにかけるといった流れになる。1月5日から2月5日まで意見を頂戴して、内部で協議した上で公表となるため、市民の皆様の意見を頂戴した上で、計画は最終確定する。

～委員長の提案によりプロジェクターで市ホームページ、市公式 YouTube を投影～

【委員長】 ホームページ上にリンクを掲載する内容については、会議後に改めて委員に聞いてはどうか。

【事務局】 そのようにさせていただく。

3. 協議事項 自殺対策の推進に向けて

<説明>ゲートキーパー養成の推進について 資料3に基づき事務職より説明

<協議>

【委員長】 草津市の人口を勘案すると、認知度を1%上げるには1,400人増やす必要がある。ゲートキーパー養成にかかる予算はあるのか？

【事務局】 ゲートキーパー養成については、毎年講師に係る費用や周知に係る費用等一定の予算がある。いただいた意見を踏まえ、来年度以降考えてまいりたい。

【委員長】 協力できること等について意見を出し合いたい。私としては、クリニックでゲートキーパーの動画を流す、資料を配る、滋賀県精神科診療所協会イベントやゲートキーパー養成研修をする、草津栗東医師会で講演会を企画する、ゲートキーパー養成研修の活動をする、産業保健推進センターでも委員をつとめているため、労務局から産業の方へアクセスすることも可能だと思う。また、ロータリークラブに所属しているが、社会貢献することがお好きな方が多いので、ロータリークラブに来ていただき、ゲートキーパー養成講座をしていただくことも、私ができることと思う。地道ではあるがそういった取組を重ねて1,400人に近づけていくことができるのではないかと。

【委員】 ゲートキーパーという言葉がすごく専門的で、一般の人は全然知らないと思う。それを崩していかないと興味すら持ってもらえない。関係のないことだと思われるかもしれないが、滋賀県が開催する哲学対話等の懇話会は人気がある。ゲートキーパーを知ってもらうための前段階として、哲学対話等のテーマを決めてみんなで話し合おうといったことをして、実はゲートキーパーというものがあるとお伝えすると良い流れだと思う。いきなりゲートキーパーという言葉を投稿込んでも、なかなか難しいような気がする。

【事務局】 ゲートキーパーは、重たいテーマのように感じられたり、縁遠く感じてしまわれる方が多いという印象がある。前段階として違う形で働きかけていながら最終的にはゲートキーパーの役割についても知っていただくという視点も踏まえて検討していきたい。

【委員長】 ゲートキーパーという言葉が、重たいテーマのように感じられる場合がある。

- 【委員】9月に実施されたゲートキーパー養成動画の視聴数はどれくらいだったか。
- 【事務局】1週間と期間を絞って配信したことや事前の周知が上手にできていなかったことから、30分ほどのアクセスだった。3月は周知の方法を検討していきたい。
- 【委員長】認知度を上げる工夫を一人ずつお願いしたい。
- 【委員】院内のソーシャルワーカーはゲートキーパー養成研修に結構参加している。新しく着任した者には受講するよう促しているが、他の職種に周知ができていない。当院には常勤の精神科医がいないため、スタッフも対応に困っている。精神疾患をお持ちの方が、身体合併で入院されていることも多いので、以前より関心や興味は高まっているのではないかと思う。働くスタッフの中にも精神的に不調を抱える人があり、職員同士が気づくことも大切である。院内で研修していただけるなら協力できる。
- 【委員長】先ほどから意見で出ているように、こころの健康アップというような内容の中にゲートキーパーを入れていくといった方が良いだろう。
- 【委員】ゲートキーパーを、心の健康づくりサポーター等とするのが良いのではないか。養成研修の内容と回数の基準を外す等、草津市流に簡単にできると良い。いのちの電話の研修受講者はゲートキーパーだとしてももらえれば、数は増える。回数が必要であれば、市が出前研修をしてでも研修を進めていくのであれば、所属の研修講師が市町に出向く等、協力できる。
- 【委員長】もちろん目的は市民の健康を守ることであり、ゲートキーパーという言葉の周知が目的ではないが、一つの手段として、周知によって自然に市民の健康度合いが上がると良いというのが、こころの健康づくりだと思う。
- 【委員】社会福祉協議会でも、ゲートキーパーという言葉の意味や内容をよく理解できていない方がいる。認知度が低い。関わる方は認識があるが、一般の地域に住む人はゲートキーパーという言葉は縁遠い。内容を理解し、講習を受けてもらうことが目的であれば、月1回行っている各学区のまち協全体の会合等に出向き、まずは活動を知ってもらうことが一番ではないか。地域の横のつながりを何とか維持し、交際範囲が狭くなることを防止することが重要である。ゲートキーパーもその一環として各学区の組織に押しかけて広報いただくことが第一歩だと思う。
- 【委員】健康推進員向けの研修として、ゲートキーパー養成研修をしたことがあるが参加者が少なかった。それ以来実施していないと思うので、お願いにはなるが、健康推進員養成研修にゲートキーパー研修を入れてもらいたい。それにより、広がっていくのではないか。また、私は地域サロンのお手伝いをしているが、地域には様々なサロンがある。そういった地域サロンに出前講座として出向き、少しずつでも広げていくことが重要である。また、ゲートキーパーという言葉が難しいと思うなら心の健康づくりとしていくのはどうか。
- 【委員】市の職員への研修は毎年実施され、定着している。健康推進員や民生委員がある程度継続して受けられると良いと思う一方、市の自殺の実態を踏まえ、大学等と連携し、学生に働きかけられると良い。ターゲットを決めて進めると良い。
- 【委員長】大学にアプローチするのはすごく良い。滋賀県は若い方の亡くなる方が多い。立命館大学の産業医の先生をよく存じ上げているので、そこにアクセスしたらうまくいくかもしれない。
- 【副委員長】先日、まちづくり協議会連合会の中で、自殺対策そのものを知っていただくため、事務局より説明をしてもらった。しかし、知っていただくためには時間がかかるかなという反応だと感じた。まずは、自殺の実態を地域の皆様に知ってもらうことが大事である。まちづくり協議会の中には、町内会を含めて様々な団体があり、月1回は必ず会議をしている。その中で出前講座をし、まずは自殺の実態を説明したほうが良い。大路区でも今後そういった提案をしていきたいと考えており、令和6年度にはそのような計画を当初から入れて、流れを作っていきたいと考えている。
- 【委員長】一般の方が自殺の実態の話をして、それを受けるだろうか。

【副委員長】確かに受けづらい方もあると思う。しかし、この実態を知らずして、この話ができないと思う。教えて知っていただくことを、我々から訴えるように説明していきたい。身近なところで、こういったことが起きていることを知ってもらうことにより、ゲートキーパーの話が出てくると思う。

【委員】ハローワークではゲートキーパーという言葉を知っている職員は少ない。日々働きたい人に関わる職員に、研修をしていく必要があると思った。特に障害者の担当部門や生活保護の担当部門に配置されている相談員向けに研修を受けてもらうのも一つだと思う。来所者にチラシを置き周知することもできる。

【委員長】ハローワークは自殺のリスクの高い人たちが来られるところでもあるので、このアプローチはとても良い。

【委員】「悩んでいる人に気づいて話を聞いて、必要な支援につなげたりしていますか」というアンケートがあった時に「やっていますよ」という方がおられたり、ゲートキーパーの活動ができていれば、ゲートキーパーという言葉が知らなくても問題ないと思う。「誰かから相談されたときにためらいを感じるか」に対して、どれくらいの方が「できる」と答えるか。言葉の意味を知らなくても、ゲートキーパーの活動に対してためらいを感じずにやってみようとする一人一人が思っていないといけない。言葉を変えたとしても、内容は同じなので、参加人数自体はそのうち頭打ちになるのではないかという気もする。自死遺族の方にゲートキーパーになってもらうことは難しい場合もあるが、自死遺族の会に繰り返し参加されている方は、初めて参加された方の話を傾聴したり、自分の経験を話したりされる等、参加者でありながらサポートする立場の方がおられる。例えば、離乳食レストランとか、フードバンクセンターとか、同じような立場の方が集まる場所で、自分より悩みが深刻な方に対して助けることができるという意味で、ゲートキーパー研修の案内をしていくくらいでも良いと思う。凧の会で、ホームページや参加者に対して案内はできる。

【委員長】秋田市等では近所力をあげることで自殺を防ぐことができているという事例がある。ゲートキーパーという言葉の浸透度がどうかというのが目的ではないが、ゲートキーパーの勉強をしてもらうことによって、どのように対応したら良いかを専門的にわかってもらう。心の健康づくりというところで草津市全体が健康になっていくと思うので、この指標については、悪いことではないかと思う。自死で子どもや家族を亡くすといった出来事はとてもつらいことで、最初は「否認」といって、そんなことは受け入れられないと思うが、それが段々「昇華」して行って、他の人をサポートできるようになるというのは、その人の回復過程にとっても良いことであり、そういった方がゲートキーパーの言葉を知らなくても、実際ゲートキーパーの役割ができるので、さらに専門的に勉強していただくと、もっと沢山の方が助かるのではないかと思う。

【委員】司法書士はゲートキーパーという言葉知らない人が多い。滋賀県司法書士会の草津市部の研修が年1、2回あるため、その研修の際に出前講座をしてもらうことはできるかもしれない。生活困窮者の法律相談や養育費の相談を行っている司法書士に講座を受けてもらうことも考えられる。単位をとるために研修を受けにくる司法書士もあると思うが、受講することのメリットが見えると良い。司法書士以外で周知していくとしたら、高校に出張法律講座に出向いている。その時に教育委員会の方と一緒に周知していただくという方法もある。

【委員長】高校生等の若い世代では、LGBTQ+の問題があり、LGBTQ+の方は4~16倍自殺のリスクが高くて、そこにアプローチできるとすごく良い。

【委員】YouTubeでの動画配信はなぜ一週間だったのか。

【事務局】動画配信は、新たな試みとして、業者に委託し実施したが、業者とのやりとりの中で永久的に流すことの合意が得られなかったため、限定した配信になった。来年度は自前で作成し、期間を限定せず配信したいと考えている。

【委員】 マルトリートメントの動画講座を受講しているが、6回無料で受けられ、レポートを提出して、終了証をもらえる。そのように、動画講座にするとハードルが低くなると思う。私はゲートキーパー養成研修にすごく興味があって、市民講座を受けたいと思ったが、どうしても予定が組めず受講できなかった。その日を逃すと他にはなかった。動画講座でレポート提出で良しとする、また、ゲートキーパー養成研修受講者で交流会をすることで、広げていくための種まきになるのかなと思う。講座を受けた後が大事。また、実施前はどうか感情を動かすかで原動力をつつくような周知の仕方をしないと難しい。不登校はリストカットや自殺が多い。子どもの自殺を減らしたいと思い、この団体を運営している。親向けにわかりやすい文言、文言の後に小さくゲートキーパーと書いておくと良い。不登校の年代の親は情報を取得するところが少ないため、取得できると良い。県のフリースクール協議会の事務局長をやっているため、そこで声掛けができる。

【委員】 薬剤師会に研修されるのが良いのではないか。

【委員】 龍谷大学の学生であるため、パイプが必要であれば協力できる。社会福祉科で講座をすると熱心に聞いてもらえると思う。

4. その他

<説明>ゲートキーパー養成研修【ステップアップ編】の開催について

閉会

【副部長挨拶】

今年度は、「第3次草津市自殺対策行動計画の策定」を中心に、本日を含め、3回にわたりまして、御議論を頂いたところでございます。委員の皆様方におかれましては、貴重な御意見をいただき、誠にありがとうございました。「第3次草津市自殺対策行動計画」は、パブリックコメントでの修正等があれば委員長に確認いただいた後、3月に策定を予定しています。これまで計画策定の中でいただきました御意見を踏まえ、計画の目標であります「かけがえのない命を大切にする社会の実現」を目指して、さらなる取組を進めて参りたいと考えているところでございます。そのためには、行政はもとより、市民の皆様や地域・学校・医療や介護・企業等、様々な関係機関の皆様との連携・協力がさらに必要となってまいります。皆様には、次年度も委嘱期間となりますので、引き続き本推進会議に御協力いただきたく、今後とも御支援賜りますようよろしくお願い申し上げます。

以上